



広島国際学院  
創立81年

# LaRGO's STORY 「Gift」



LaRGO's STORY 「Gift」 より  
情報デザイン学科 第1期生 井脇紋子 制作（平成20年3月卒業）

## 部活、コンテスト、レース…相次ぐ朗報

特集 高城祭・文化祭 .....	2・3
技術が拓く明日の世界 工学部 .....	4
知識と技術で暮らしを彩る 情報デザイン学部 .....	5
人との関わりから学ぶ社会 現代社会学部 .....	6
目標は車のエキスパート 短期大学部 .....	7
高校から発信 .....	8・9
学生時代の思い出と社会人になって思うこと .....	10
世界ラリーでメカニックの大役果たした！ .....	10
「森英子先生教育功労顕彰碑」の除幕 .....	11
連続講座「情報社会とメディア」 .....	11
第2回森学術奨励賞表彰を挙行 .....	12
手話スピーチで「奨励賞」 .....	12
今後の主な行事予定 .....	12

広 報

第76号

平成21年1月1日発行

URL <http://www.hkg.ac.jp/>

# 高城祭・文化祭

## 第41回高城祭「船出」を終えて

高城祭実行委員会 委員長 安本 優貴

10月18・19日に第41回高城祭を行いました。昨年は学院創立80周年であると共に、高城祭も第40回という節目を越えました。そこで今年は先輩という港から旅立ち、気持ちを新たにして頑張っていこうという思いを込め、テーマを「船出」に決定しました。

今年のバザー店は留学生や地域(坂町商工会青年部)の方々も出店し、祭を大いに盛り上げてくださいました。水餃子やヨーヨー釣り、高城味噌を使用した豚汁などが並び、多くの方々の喜ぶ顔を見ることができました。10号館で行われた文化展にも、大勢の来場者があり楽しめたようです。

当夜祭ではカラオケ大会や他大学によるパフォーマンス、LOFTや瑠璃のLIVEが行われ、メインイベントとして

お馴染みのビンゴ大会もありました。ディズニールンドのペアチケットやNintendo Wiiなど、豪華景品に会場からどよめきが上がっていました。

終夜祭ではメインのお笑いタレント狩野英孝とロックミュージシャンであるサンボマスターのLIVEがありました。共に有名なこともあってグラウンドは人で埋まり、今年最大の賑わいをみせました。恒例の花火も打ち上げられ、祭のフィナーレを締めくくりました。

また、今年は電気主任技術者国家試験受験クラブに協力して頂き、大規模なイルミネーションも設置しました。幻想的な青い光が点されると来場者は帰る足を止め、感動した様子で見入っていました。廃食用油をリサイクルしたバイオ燃料を発電に使用。バイオ・リサイクル専攻の協力で、環境にも配慮した光のショーが実現しました。高城祭終了後、このイルミネーションは中野キャンパス1号館に取り付けられ、今も夜の校舎を彩っています。

今年委員長を任せられ、何をどうしたらいいのかかわからない私を多くの方々を支えてくれました。苦しい時に励ましてくれ、時には一緒に悩み、作業を手伝ってもらいました。そんな人たちの支えがあったからこそ、実行委員が少人数の中、今回の高城祭は成功できたのだと思っています。来年は今年以上にいろんな人たちと協力して、全く新しい高城祭を作ってくれと信じています。➤



メインゲストの登場を待ちわびる大観衆



イルミネーションでキャンパスは幻想世界に

## ～来ん祭☆見ん祭☆文化祭～

—広島国際学院高等学校—

何をするにも、お天気です。前夜からの雨も明け方には期待に応え見事に上がった11月16日、まさに文化祭日和の下で第47回文化祭が開催されました。「～来ん祭☆見ん祭☆文化祭～」。今年のテーマの如く、保護者の方だけでなく、近郷近在からたくさんの方々にお出でいただきました。



熱唱する生徒らにひととき大きな喝采(合唱コンクール)

体育館では1年生による合唱コンクールが催され、「聞きんサイ」と言わんばかりの情熱溢れる歌声が満場を魅了しました。コンクールには、なんとPTAからの参加も。お父さんのトランペットが会場に鳴り響き、聴衆から大きな拍手が沸き起こりました。

教室では、「見ん祭」。2年生の全クラスと文化部がそれぞれ知恵を絞った展示を行いました。広島を中心とした「祭り」の歴史やお菓子の紹介、消えゆく生物の粘土細工や、めずらしい生き物を展示したクラスもありました。“わが広島カーブ”を市民球場の歴史とともに紹介したクラス、福祉施設に何度も足を運んで福

# 学生・生徒のエネルギー

最後にご支援、ご協力くださいました関係者の方々、ご来場くださった全ての方々に心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。来年もよろしくお祈りします。

## 茶道で学んだ「一期一会」の心

留学生グエンさん、高城茶会でお点前披露

茶道部 グエン・ニャン・ダクさん〔ベトナム〕

私はベトナムのベンチェ県(Bentre town)から来たグエン(Nguyen)・ニャン(Nhan)・ダク(Duc)と申します。工学部機械工学科4年生です。

私は茶道に興味を持って、入学してから茶道部に入りました。私は初めてお茶の先生から「一期一会」という話を聞いたとき、意味がよく理解できませんでした。私は、茶事では何度も同じ人と会う機会があるから、「一期一会」ではないはずだと思いました。けれども、先生から毎度の茶事では手前や亭主やお客様が同じでも、その茶事を行うとき季節や事件によりお茶の道具や雰囲気など全て同じというわけではないから、毎度の茶事に対してはいつも「一期一会」の気持ちを大切にすると教えていただきました。また、私が茶道部に出られないときも仲間は怒らず、私のぶんまで行動してくれました。

私はこの大学で専門的な知識を身に付けると同時に、茶道部でも日本の文化や礼儀作法などを学び、4年間で人を思いやる心や仲間を大切にすることがわかりました。先生方や仲間のおかげで、日本の生活の中でだんだん「一期一会」の意味がわかるようになってきました。

高城祭の茶席は、当日ちょっと体調不良になってしまったので、本席にあまり出られませんでした。しかし、休日にもかかわらず後輩達のために遠くからわざわざ来て手伝ったり面倒をみたりしてくれた部の先輩を見ると、本当に感動しました。普段のお稽古より自分の成長出来るのが、茶会が終わった後だと毎回思います。先生や先輩のおかげで、人を思いやる心を大切に、心を込めて行動することを勉強させてもらい、感謝しています。茶道部は心が磨けるところだと思います。



茶席でお客をもてなすグエンさん（右から4人目）



お疲れさま！終了後に仲間と記念撮影  
(前列左がグエンさん)

社の現状を訴えたクラスなど、それぞれにクラスの特徴を表現していました。

文化祭の楽しみは、何と言っても買い物と食事です。PTAによる「手作り作品」には長蛇の列。各クラブ・クラスのお店はどこも大入りでした。

また初めての企画として、系列大学・短大からの応援参加がありました。広島国際学院大学の教育研究内容を紹介するコーナーが設置された他、同自動車短大は全国優勝したゼロハンカーを展示しました。

さらに、昨年に続き第2回目となる「海田町民グラウンドゴルフ大会」も同日実施しました。出場27チーム、約170名もの参加をいただき、盛大に挙行。グラウンドには水溜まりもなく、絶好のコンディションと熱気の中でゲームが進行しました。

大盛況、大にぎわいの内に第47回文化祭は幕を閉じました。生徒にとって、すばらしい思い出となる文化祭であったと思います。計画立案、そして実施に携わっていただいた多くの方々に心からお礼を申し上げます。



多数のお客様でにぎわう中庭、  
どの店も大繁盛だった

# 技術が拓く明日の世界

工学部

## シンポジウム「世界で起きている食糧危機—私たちにできること—」



小原部長による基調講演

10月19日、立町キャンパスにおいてシンポジウム「世界で起きている食糧危機—私たちにできること—」を開催しました。

昨年、世界的な食糧不足と米・小麦等の穀物を中心とした食糧の価格高騰が大きな問題となりました。世界的に進行する不景気の影響により、穀物価格は現在落ち着いてきていますが、今後も世界の人口が増加し続けることと予測されるため、長期的には食糧不足がさらに進行すると考えられています。

本学部はこれまで、低コストで環境に負荷の少ない農薬・肥料を用いた食糧増産や食糧用植物以外からのバイオ・エタノールの抽出・実用化等の研究を行ってきました。同分野では10年以上に及ぶタイの大学との学術交流も発展。去る9月にはタイ王国農業省農業研究開発機構(ARDA)

との間で学術交流協定(覚書)を締結しました。このような取り組みを進めてきた経緯から、食糧問題の現状や解決の方途について地域社会の方々とともに考える場を作りたいと考え、今回のシンポジウムを企画するに至りました。

初めに、食糧問題の現状と国際協力に詳しい独立行政法人国際協力機構(JICA)の小原基文農村開発部部長より「食糧問題と国際協力」と題し基調講演をいただきました。食糧価格の高騰や食糧不足の影響を最も受けるのはサハラ以南のアフリカ諸国を中心とした低所得国(82カ国)であり、2007年における栄養不足人口は前年比で7,500万人も増加している等、世界の食糧問題の現状を報告。解決策として国連を中心とした食糧の緊急支給や食糧増産のための種子配布などの短期的対応とともに、中長期的には穀物を増産するための技術移転が絶対的に必要となると説明されました。

続いて小原部長と中国新聞社の山城<sup>しやま</sup>滋論説主幹、本学部の佐々木健教授、渡辺昌規准教授の4名によるパネルディスカッションを行いました。山城論説主幹は視点を国内に転じ、食糧問題は日本として傍観できず、食糧自給率をどのように高めていくかについて早急に検討しなければならないと述べました。佐々木教授は、本学部で現在取り組んでいる研究を食糧問題解決に活かすことができ、今後タイで実施を目指している米を中心とした農産物の生産向上のプロジェクトもその一例であると話しました。さらに渡辺准教授は、米のとぎ汁からバイオ・エタノールを精製する技術を開発したこと、同技術の更なる実用化を目指すことを説明しました。

シンポジウムには一般の方・学生・教員が70名近く参加し、質疑応答も活発に交わされました。終了後に実施したアンケート調査からも、多くの参加者がこのようなイベントの継続的な開催を望んでいることが伺えました。本学部としてもこのテーマに今後とも強い関心を持ちつつ、様々な教育・研究活動や国際協力活動に取り組んでいきたいと考えています。



パネルディスカッション

## 企業の専門技術者による特別講義

総合工学科(機械システム専攻)では、高度な技術を有する近隣企業から、本大学出身の専門技術者を招き、特別講義を実施しています。卒業生が講師として、「実社会での仕事について」を学生に講義して頂くことにより、学生は自分の将来像を講師の姿から思い描くことができると思います。今年度は、学生が普段の講義で学んでいる機械設計やコンピューターシミュレーション技術が実社会でどのように生かされるのか。将来、専門技術者として自分が今、何をすべきかを理解するために、多くの事例を紹介しながら分かりやすく解説して頂きました。



企業の専門技術者による特別講義

学生のデザインが採用 広島名物「もみじ饅頭」平成20年10月10日発売

広島を代表するお菓子「もみじ饅頭」。4年の井堰絵里佳さんが卒業制作としてデザインした包装紙が、その販売に役買っています。広島県北部の老舗菓子司処・大國堂さんが市販製品用に採用したもので、井堰さんの名も明記されています。修学旅行で広島に来る小・中・高校生をターゲットにしているため、やさしく可愛らしい印象。贈る人の心と美味しさが波紋のように伝わることを、紅葉が清流に浮かび流れる様子で表現しました。

井堰さんは「包装紙のデザインは初めてでしたが、大國堂さんに選ばれ大変嬉しく思いました。選ばれてからは成分表を載せたり、寸法を修正したり、デザイン自体を変更したりと毎日が忙しく、あっという間に時間が経ちました。作業をしている間はとても大変だったのですが、実際に制作した包装紙が商品を飾っているのを見ると、今まで頑張ってきてよかったと思いました」と感想を述べました。



完成したもみじ饅頭を手に笑顔の井堰さん

12月中旬には松山下智幸さんが包装紙をデザインした24個入の「四季もみじ」も発売。こちらは企業から企業への手土産という施主からの要望により、力強くはっきりとしたデザインです。

本学部伏見ゼミでは、実際の社会と結びつくデザインが学生の實力向上に欠かせないとして各種のデザインに取り組んできました。このほか名物「ヒバゴンのたまご」などの包装紙や、市販用ワインラベルのデザイン、商店街の活性化を目的としたデザインなどにも引き続き取り組んでいます。

大國堂さんHP <http://www.daikokudo.com/>

本学部の卒業制作選抜展を紹介した参考HP <http://www.daikokudo.com/www/jyoho/RefineMyself/rm01.html>



四季もみじを示す松下山

地  
域  
に  
発  
信

●特別講演会「ゲームクリエイターの最前線」

新たなデザイン分野としてゲームに注目する本学部では、11月21日(金)に特別講演会「ゲームクリエイターの最前線」を開催しました。この講演会は、昨年に引き続きゲーム制作会社Q-GAMESとのコラボレーションにより実現したもので、同社の2名のクリエイターの方をお招きして、最新ゲームの制作秘話などを具体的な事例紹介を交え詳しくお話して頂きました。午前の中野キャンパスでの講演は、「情報デザイン特論」の授業として主に1年生を対象に実施。学生達は初めて見聞きするゲーム制作の舞台裏に興味津々の様子でした。夕方の立町キャンパスの講演では、本大学の学生・教員を交えた座談会やゲーム体験コーナーも設け、終始和やかな雰囲気の中で貴重なお話を伺うことができました。



講演の様子

●市民講座「第3回デッサン教室」開催

9月28日(日)、第3回デッサン教室を立町キャンパスで行い、3回連続の市民を始め、美術・デザイン系の大学進学を目指す現役の高校生など多数が参加しました。高校生5人のほか、グラフィックデザイナーの20代女性や定年後の新しい趣味にしたいという男性など、幅広い申し込みがありました。



デッサン教室

初めてデッサンをするという参加者も助言者(穴迫講師、伏見教授)のアドバイスを参考に、熱心に鉛筆や木炭を動かしました。参加者の一人はデッサンの魅力について、「対象物の形や光と陰を捉え、それを画用紙に表現する自分が発見できる」と述べました。講評会では、個性豊かな作品がサロンに並びました。デッサンに対する真摯な姿勢が全ての作品から感じられ、和やかながらも真面目で真剣な講評会で秋の一日を閉じました。

# 人との関わりから学ぶ社会

現代  
社会学部

社会学合同演習

おもしろ人生ゼミナル

## 恋愛論

—川島なお美客員教授—

川島なお美客員教授の社会学合同演習「恋愛論」が、10月22日(水)に行われました。

川島先生は事前に学生からアンケートをとり、講義はまずその結果に対するコメントからスタートしました。「無気力なところがある」「強い目的意識や参画意識が希薄」など辛口の評価も。しかし、先生のまっすぐで真摯な気持ちが会場を埋めた250人の心に響いたのか、大変良い雰囲気の中で講義は進みました。



恋愛、将来の夢…  
くつろいだ雰囲気でも打ち明ける

「人生のゴールを目指す中で、通過点として様々な目標がある。その目標への対峙を積み重ねることによって豊かな人生を送るよう努力すること」、また有名な「恋愛には賞味期限がある」という警句も飛び出すなど、硬軟取り混ぜた話題に全員が聞き入りました。後半は川島先生を囲んで4人の学生が登壇し、高畑幸先生の軽妙な司会でパネルディスカッションが行われました。「心を開いて、真剣に」との先生のアドバイスもあり、「告白するタイミング」などさまざまな話題で盛り上がり、会場の学生とも一体となって瞬く間に過ぎたひと時でした。



笑顔で気さくに語りかける川島先生に  
一同釘付け

## 現社祭

10月4日(土)、現代社会学部の祭り、略して「現社祭」が開催されました。今年には体育館でスポーツ大会を行ないました。当日の飛び入りを含めておよそ40人の学生が参加し、ソフトバレーとバドミントンを楽しみました。今年には特に1年生の参加が多く、また、留学生チームが結成されるなど、学年を超えた、また日本人と留学生との交流にもなる一日となりました。優勝チームはソフトバレーがコマンド・エリート、バドミントンがペニシリンでした。

スポーツ大会の後は、お待ちかねのバーベキュー。体育館横の広場で、バーベキューコンロを3つ出して、ここから参加の学生や職員も交えて、総勢約50人が肉や野菜をつつきました。当日は、VOD(音響系サークル)が音響設備を提供してくれて、軽快な音楽を楽しみながらバーベキューを食べ、参加者同士の交流を深めることができました。



ネット際の息詰まる攻防

## 「ビジネス・インターンシップ研修」・「ボランティアとNPOの社会学」報告会

11月12日(水)、本学部にて、2008年度の「ビジネス・インターンシップ研修」および、「ボランティアとNPOの社会学」の報告会が行われました。登壇して体験を発表したのは、ビジネス・インターンシップでは、3年生の柴田陽平君(株)中国新聞広告社)、中村香苗さん(社)中国地方総合研究センター)、船川雅広君(平安閣グループ、ユーアイ・ベルモニー(株))、吉岡唯行君(広島修道大学)、ボランティアでは、1年生の中西慶太郎君(広島市立中野東児童館)、山崎裕介君(広島市立



広島修道大学での体験を語る吉岡君

幟町小学校、少年ソフトボールクラブ)、吉岡佑記君(同左)の7人です。それぞれ、体験したインターンシップやボランティアの概要を報告した後、そこで得たもの、考えたことについて、パワーポイントを使ってわかりやすく説明しました。報告会の最後には、高畑幸先生が講評を行い、報告の仕方、また、インターンシップ研修やボランティア体験の内容についてコメントしました。会場で聞いていた1年生は、就職活動に向けたビジネス・インターンシップ研修の意義や、社会学を学ぶ上でボランティア体験が果たす意味について、学生の体験を通して触れることができる有意義な時間となりました。

## 卒業生・千屋さん、輝く全国優勝!

—マツダオートザム全国サービス技術大会 サービス・アドバイザー部門で—

短大就職課長 川口 修三

10月9日(木)、マツダ体育館において第7回マツダオートザム全国サービス技術大会が開催されました。地方大会を勝ち抜いた精鋭25社(50名)が出場、日頃鍛えた整備技術や接客技術を競い、その成果を発表する場となっている同大会で今回、マツダオートザム海田から地区代表として出場した千屋秀高さん(平成18年3月卒)が、サービス・アドバイザー部門で全国一位の栄冠に輝きました。

千屋さんは「入社して3年目の自分自身、まだまだ努力が足りないと思っていたので、信じられない気持ちでした。これも上司や先輩のご指導のお陰です」と謙虚に語りました。また「日々仕事に追われる中で少しでも時間をとり集中して勉強するよう心掛けたことが成果につながったのだと思います。今後はエンジニア



賞状を手にする千屋さん

の部で上位入賞を目指す

とともに、1級整備士の資格取得が当面の目標です」と、熱い思いも話してくれました。この経過を暖かく見守ってきた小沢義弘社長は「当社は地域での一番店を目指しています。それで経験年数は浅いものの、安心して仕事を任せられることができる若手のホープの千屋君を早めに選抜しました。重点的に講習等に積極的に参加させ、新しい知識を身につけさせて来ました。また、大会が近づくと先輩達が「接客」の特訓を行って来たことも成果に結び付いたと考えています。千屋君には今後、より高難度の修理にも挑戦してもらい、早く一流の整備士になってもらえると期待しています」と喜びを語ってくださいました。



小沢義弘社長(左)、小沢茂夫店長(右)と

## 楽しかった研修旅行

生活指導委員会 准教授 越智 三千彦

かねてより念願であった研修旅行を9月8～9日、一泊二日の日程で行いました。

一昨年の秋から具体化の検討に入り、入学式で新1年生に紹介、実施に当たっては2年生も含めて自由参加で募集しました。その結果、最終的に24名の参加申し込みがあり、引率職員4名を加えて今年度は北九州方面へ旅しました。

研修は近年、九州地区への自動車メーカーの工場進出が相次ぐ中で、レクサスやハイブリッド車を生産するトヨタ自動車九州工場を訪問。最新の設備による自動車の製造過程を見学しました。そのあと、学生たちが楽しみにしていたキャナルシティ博多\*で、買い物やゲームセンターで過ごし、次いでスペースワールドではフリーパスポートで思う存分楽しみました。この2日間は学生時代の楽しい思い出の一つとなることでしょう。

初めての試みで何かと心配もありましたが、学生たちの喜ぶ姿に心癒やされるものがあり、大成功であったと思います。

\* 96年開業、ショッピングモール、映画館、劇場、ホテルなど、様々な業種を併せた複合施設。



トヨタ自動車工場を見学、思い出の1枚

# 高校から発信

国民体育大会は冬季大会約4千人、本大会約2万5千人の選手役員が参加する、わが国最大のスポーツの祭典です。広く国民の間にスポーツを普及し、アマチュアリズムとスポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにする目的で開催されています。昭和21年、京都府を中心とした京阪神地区で第1回大会が開かれました。戦後の混乱期に明るい希望と勇気を与えた大会として長く記憶されています。その後も時代の世相を反映しながら回を重ね、昭和26年、平成8年と広島県でも開催されました。今年度は大分県で第63回大会が行われました。



対戦中の白雲君（左）

「チャレンジ！おおいた国体」で健闘



5位に入賞した坂野君（中央）

3名、2位2名、3位8名と、少数ながら数々の大会で入賞を果たしています。

## レスリング部

グレコローマンスタイル84kg級に坂野修平選手（総合システム科2年3組）が、またフリースタイル66kg級には白雲央樹選手（普通科1年4組）が出場しました。特に坂野選手は今後の活躍に期待が持てる試合を展開。3位決定戦で惜敗したものの、少年男子の部で見事5位に入賞しました。

本高校レスリング部は1964年（昭和39年）に発足し、40年を超える歴史を築いてきました。その間優勝者



ナイスショット！

## ゴルフ部

好天の下開催された少年男子の部。久志岡俊海君（普通科1年3組）は、初日はトップの69、2日目は74、トータル143のスコアでラウンドし、個人戦3位と入賞を果たしました。また、3人のトータルスコアで争う団体戦でもチームを引っ張り、6位に入る活躍でした。

一方、女子の部に出場した渡邊杏奈さん（普通科2年5組）。初日は78、2日目は80、トータル158のスコアでラウンドしました。最後まであきらめず頑張りましたが、惜しくも入賞はなりませんでした。二人ともまだ来年以降がありますので、今後のさらなる飛躍に期待しています。

## 大活躍の秋の陣

**【テニス部】** 柳田奈美さん（普通科2年3組）と三宅菜月さん（同2年5組）のペアが、11月に行われた「第2回新人中国地区大会」に広島県代表選手として出場しました。春の「第61回広島県高校総体」で男子が団体第5位に輝いたのに続く本高校初の快挙です。

**【柔道部】** 「広島県高校柔道新人大会」で大健闘、男女ともに「第9回中国高等学校柔道新人大会」への切符を手に入れました。中国大会で女子は第5位入賞を勝ち取り、青山友子さん（普通科2年3組）が優秀選手賞に輝きました。

**【ゴルフ部】** 国体で大活躍した久志岡俊海君（普通科1年3組）は、10月に行われた「広島県オープン選手権アマチュアの部」と「中国ジュニアゴルフ選手権」でも優勝を果たしました。

**【吹奏楽部】** 10月に開催された「第25回中国ユース音楽コンクール」で、細川大輔君（総合システム科3年3組）が「木管楽器部門」で最優秀賞を、また浦上忠裕君（同3年1組）は「金管楽器部門」で奨励賞をそれぞれ受賞しました。本高校初の快挙です。吹奏楽部はさらに、11月の「第10回全日本高等学校吹奏楽大会 in 横浜」で昨年度に続き連盟理事長賞を受賞しました。

# 修学旅行

## 北海道

普通科2年6組 木下かなめ

リンゴ狩り、ホテル、ラフティング、小樽の寿司、札幌駅……修学旅行の思い出は尽きませんが、私の中では、寝台列車と函館の夜景の印象が強く残っています。

正直、列車の中で寝られるか乗る前から心配でした。案の定、揺れるわ、うるさいわで、寝たり起きたりの繰り返し。目がさえてしまい、あきらめて午前4時30分に起きると、他の人も感染したかのように起き出したので驚きました。滅多にない体験だったので、いい思い出になりました。

函館山の頂上から見える夜景は、7合目が一番きれいだと思います。自主研修の疲れをふきとばしてしまうような絶景でした。



真っ赤なもぎたてリンゴをほおぼる

## 沖縄

普通科2年3組 河手 誠



美しい海でマリンスポーツを堪能

飛行機から見た海の美しさにまずびっくり。海は青いだけでなく、サンゴ礁で水色になったりして透き通っていました。空港に着くと、日差しはきついけど日陰はカラッとしていて、意外に過ごしやすかったです。

一番思い出に残っているのは何と言ってもマリンスポーツです。ダイビングではウツボ、ハリセンボンやたくさんの魚に感動。シュノーケリングでも海へびがいて驚きました。バナナボートやドラゴンボートでスピードを楽しみました。水しぶきで目は開けられず、左右に揺られるスリルを体験。マリンスポーツの醍醐味を味わえました。

集合時間を守り、食事の準備や片付けも協力できて有意義でした。

## 韓国

普通科2年1組 佐々木美樹

韓国旅行で特に印象に残っていることが二つあります。一つ目は「慰安婦」という言葉。内容は衝撃的で心がつぶされるように苦しく、耳をふさいでその場から逃げたいほどでした。しかも私はこのことを韓国に来て初めて知り、情けなく思いました。戦争の歴史に対する考えが変わったように思えます。

二つ目は自由行動での買い物。現地の大学生の方に様々な所に連れて行ってもらい、まず物価の安いことに驚きました。ほとんどが日本の半額以下で買え、金銭感覚が鈍りそうでした。また、人とのふれあいややはり楽しめました。皆笑顔で何とかコミュニケーションを取ろうとしてくれました。

学んだのは、言葉の壁などないということです。思い出をくれた皆に感謝！



イムジンガクにて



シーケンス自動制御による鉄道模型の運転風景

## 大盛況のオープンスクール

「暑さ寒さも彼岸まで」。平成20年度のオープンスクールは、学校長・荻野先生のこの言葉で始まりました。真夏の暑さも幾分影を潜め、まさにオープンスクール日和。今年の参加者はおよそ1,650名。昨年の実績を上回る参加者数で、そのためきちんとした対応ができるかどうか、担当者はひと月も前から見学コースや人員配置などに苦心しておりました。オープンスクールを切り盛りするのは手伝いの生徒230名と全職員、総勢350名での接待です。しかし、本高校1号館中庭を埋め尽くす中学生と保護者。とても丁寧なサービスを提供することは出来ず、参加者にはご迷惑をおか

けたことと思います。

オープンスクールの内容は、教室や実習室における講座・実習の見学と、食堂での学食体験、さらに、体育館での在校生と卒業生の代表による体験発表です。在校生や卒業生の話には、中学生は特に集中して興味を持って聞いていたようです。

オープンスクール参加者数には、どの学校も神経をとがらせております。さて、本高校の来年度入試は如何に!?

学生時代の思い出と社会人になって思うこと

## 福祉の仕事がしたい…多忙な勤務の傍らで資格を取得！

現代社会学科 平成18年3月卒業 おなが 翁長 みゆき



学生時代の思い出は、全てが新しいことだったと思います。

一人暮らし、新しい友達、バイト、同じ目標を持つ先輩や同級生との勉強会、留学生との交流会…とあげたらたくさんあります。社会常識や社会の仕組みを教えていただいた有意義な大学生活であったと思います。

中でも社会福祉士の資格を目指す人達との勉強会は、結構楽しいものがありました。ご飯を作って、そこでご飯を食べて、その後また勉強をして…というのを毎週行なっていました。都合があつて毎週の勉強会はなくなってしまい、残念に思いましたが、楽しかった思い出です。在学中、4年生の時に国家試験を受けたのですが、残念ながらその年は合格できませんでした。

それから大学を卒業し、沖縄県労働金庫に入庫しました。今年で2年目になり、窓口を担当しています。労働金庫は、働く仲間がつくった働く人のための福祉金融機関であり、生活者本位に考える金融機関です。地元根付いた金融機関でお客様も多く、多忙な日々を送っています。忙しい毎日ではあ

りますが、大学でせっかく学んできた社会福祉士の知識を忘れないうちに再度勉強して資格を取りたいと思い、仕事をしながらできる範囲で勉強を続けていました。今年、頑張った甲斐あつて合格の通知をいただき、勉強を続けてきてよかったと思っています。この資格を生かし、いずれは福祉の仕事へ就こうと考えています。

### 講師 夏明 成己

10月31日～11月2日に北海道札幌市を中心とした道央地区で「WRC(世界ラリー選手権)第14戦ラリージャパン」が開催されました。専攻科2年生の栗田直紀君と共に、栃木県のメープルスポーツラリーチームからエントリーした2台のランサーエボリューションⅧのメカニックとして参加して来ました。

ラリーは31日の初日から大荒れとなりました。2人が昼に札幌に到着した時点で、すでに1台はコースオフした後でした。サービスパークに着くや否や、すぐさま作業着に着替え、パーツの準備や作業手順の打ち合わせなど、とても大変でした。結果的に一台はリタイヤに終わってしまいましたが、もう一台の車両は無事最後まで完走することが出来ました。



整備作業に集中している栗田さん

今回初めて学生と参加したわけですが、世界ラリーといった大きな舞台の中で1チーム員として参加したことで、学生には良い経験になったのではないかと思います。

### 専攻科2年 栗田 直紀

今回WRCにメカニックとして参加することが出来、とても良い経験になりました。限られた時間、道具、部品などの制約の中で目的を果たすと言う難しさを勉強させてもらいました。限られた条件の中で成果を出すと言う点では、就職してからのサービスもWRCのサービスも変わらないと思います。WRCという世界最高峰の技術や現場の雰囲気を経験したことは、今後の自分の成長に役立つことでしょう。これをきっかけに、後輩達にもこの様な機会が増えることを望んでいます。

(注)WRC…World Rally Championshipの略



夏明講師(左)と栗田さん

世界ラリーでメカニックの大役果たした！

自動車短期大学部

## 「森英子先生教育功労顕彰碑」の除幕

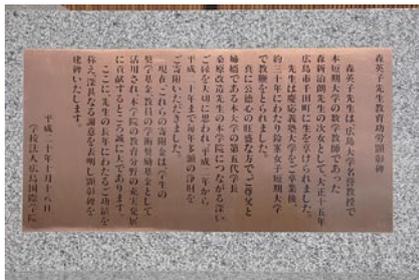
本大学中野キャンパス1号館西隣に故森英子先生の教育功労を称える顕彰碑が完成し、10月18日(土)に除幕式を行いました。

森英子先生は真に公德心の旺盛な方で、平成2年からの長きにわたり多額の浄財を毎年ご寄付いただきました。残念ながら昨年2月19日に81歳で生涯を閉じられましたが、本短大の数学教師だったご尊父の森新治朗先生、本大学の第5代学長だった姉婿の桑原改造先生と本学院のご縁を大切にしてくださいました。



2名の学生代表による除幕

除幕式当日は大変素晴らしい天候に恵まれ、森先生のご遺族である桑原啓一様をはじめ、理事長、学長等本学院関係者、森奨学金を受けている学生20名と合わせて38名が出席しました。学生代表2名による除幕の後、理事長あいさつに続いて、名誉学院長が森奨学金の経緯を説明しました。さらに桑原様からは、建碑に対する感謝のお言葉をいただきました。



顕彰碑の全文

代表で除幕した三浦文昌さん(工学部4年)と末政由紀さん(同2年)はともに「奨学金のおかげで学業に専念できます。学生生活を精一杯がんばり、将来何らかの形で恩返しができるれば」と語っていました。

経済的・身体的その他いろいろな理由で教育の機会が不利な状態にあった若者に対し、様々な形で支援の手を差し伸べた創立者の精神を引き継ぐためにも、森先生からいただいた多額の浄財を有機的に活用することは本学院に課せられた使命であります。

## 連続講座「情報社会とメディア」

連続講座「情報社会とメディア」を立町キャンパスで開催し、多角的な視点から情報社会の現状と将来について学びました。その中から第3回講座の様態をご紹介します。

現代社会学部 准教授 谷口 重徳

10月11日(土)の第3回講座では、講師に広島アニメーションビエンナーレ2008実行委員会事務局長の百々隆雄氏をお迎えし、私(谷口)と共に「アニメーションとメディア～コンテンツを手がかりとした地域活性化を目指して～」をテーマに講演と質疑応答を行いました。



百々氏(左)と谷口先生

近年、日本のアニメーションやマンガ、ゲーム等のコンテンツ文化は国内外から注目されています。国政レベルでもコンテンツを日本の重要産業として位置づける動きが見られます。しかし現状では、コンテンツの制作や流通の拠点は首都圏などに集積しています。それによって、首都圏と地方では受容可能な情報量に大きな格差が生じています。また、コンテンツの分野での活躍を志望する若者は地方から首都圏へと一方的に流出しています。

こうした現状に対して、地域文化の一つとしてコンテンツ文化を育てていこうとする取り組みが、広島や中国地域で見られるようになってきました。例えば「みんなのライトノベルコンテスト」のように、古来より広島・瀬戸内海・中国地方に受け継がれてきた物語や民話、歴史、地理などを題材にした、地域性をふまえたコンテンツ作りが進められています。今回の講座を通じて、コンテンツを通じた地域活性化の現状と課題、さらには将来への展望を参加者と共有することができましたことを嬉しく思います。

開催日	講師	テーマ
9/27	加藤千洋氏 (朝日新聞編集委員)	北京オリンピック後の中国の今後
10/4	奥藪秀樹 (本大学現代社会学部准教授)	国際政治とメディア～朝鮮半島を中心として～
10/11	百々隆雄氏 (広島アニメーションビエンナーレ2008 実行委員会事務局長) 谷口重徳 (本大学現代社会学部准教授)	アニメーションとメディア～コンテンツを手がかりとした地域活性化を目指して～
10/18	坂井佳宏氏 (広島ホームテレビ前常務取締役)	デジタル放送と今後の展望

## 第2回森学術奨励賞表彰を挙行 —渡辺昌規准教授に栄誉—



渡辺昌規先生（中央）

顕著な功績ある教育への取り組みに対する表彰として昨年度に創設された森学術奨励賞。第2回受賞者として工学部総合工学科の渡辺昌規准教授が選ばれ、10月18日(土)に表彰式が執り行われました。

### 第2回森学術奨励賞受賞に際して

工学部 総合工学科 准教授 渡辺 昌規

昨今の地球温暖化問題、食糧・エネルギー問題は、我々の生活にまで深く浸透しつつあり、抜本的な解決を求められています。特にバイオテクノロジーは、有力な地球環境調和型技術としてその利用・発展に注目が注がれています。

そこで本大学では、環境汚濁物質として知られる“米のとぎ汁”や“うどんのゆで汁”などの穀物系排水からバイオエタノールを生産する技術を精米機製造の㈱サタケ、米卸業の㈱食協と共に開発しました。本技術は、上記排水からバイオエタノールの原料となるデンプン成分を効率的に抽出・濃縮する技術と米ぬかを糖化酵素として利用し、デンプンから糖、さらにエタノールを生産する技術から成っており、特許も取得しました。本技術は環境問題とエネルギー問題を同時に解決できる新技術として、新聞、TVなどのマスメディアで取り上げられ、本技術と共に広く本学院の名をアピールすることができました。また本技術はものづくり教育と環境教育の双方を担うことから、高等学校からの出張講義や技術協力を実施し、これらの活動を通じ、“文部科学省スペシャリスト育成事業運営委員”に任命されました。

今後地域貢献の一端を担うべく、本技術の実用化に向けた産学連携ならびに、ものづくり・環境教育等、高大連携の推進に全力を注ぐ所存です。

最後に、森先生のご厚情に深く感謝申し上げるとともに、御遺志に報いたく存じます。

## 手話スピーチで「奨励賞」 —高校・佐伯乙美さん—

「第25回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト」。第1次・第2次の2回の予選を見事にパスした佐伯乙美さん(普通科1年1組)は、東京で開催された全国大会に出場し、「奨励賞」を受賞しました。手話スピーチのタイトルは「自由に羽ばたけ『天女』の如く!」。

子供の頃から活動してきた手話サークル。そこで出会った4歳の少女「紗良ちゃん」の話です。聴覚障害の他に重い心臓病という二重の障害と向き合いながら、歯科医師への夢を持ち続けている少女の姿を、手話で紹介しました。引率の教員の話では、そのスピーチぶりは堂々としており、それはそれは見事であったそうです。

将来の夢は「手話のできる看護師」。是非、崇高な夢を実現してほしいと思います。



©朝日新聞社提供

自信に満ちたスピーチ

### ★ 今後の主な行事予定

大学・短大 授業開始 (工・情1/8 現1/9 短1/6)  
後期末試験 (工・情1/28~2/4 短1/21~26) 保護者懇談会 (短2/21)  
推薦入試 (短1/17) 一般入試 (大 前期A1/29 前期B1/30 後期2/27  
短 前期1/30 後期2/27) 卒業式 (3/19) 入学式 (4/5)  
高 校 授業開始 (1/7) 推薦入試 (2/3) マラソン大会 (2/11)  
一般入試 (2/12~13) 卒業式 (3/1) 入学式 (4/8)

この広報誌はホームページでご覧になれます。 <http://office.hkg.ac.jp/kikaku/kouhou/>

高校生以上の方に図書館を開放しています。 詳細は図書館までお問い合わせ下さい。TEL082-820-2536